

学校教育目標 「一人ひとりが輝き、地域から信頼される学校」

「知」 「徳」 「体」 「コミュニケーション」
かしこい子 やさしい子 たくましい子 つたえあう子

研究テーマ

学びに向かう力を育む

～子どもが自ら問いをもち、自ら学ぶ授業を通して～

児童につけたい力（育成すべき資質・能力）

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」
の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」の涵養

生きて働く
「知識・技能」の習得

2つの研究の柱

【問いの発見を大切にしたい授業展開の工夫】

児童が主体的に学習に取り組むために重要な役割を果たす「問い」。子どもにとって、「問い」が生まれる場面を設定する。

◆「ねらいに迫る問い」となっているか

⇒的確に実態を把握し、つけたい力やねらいを明確にする。

◆「子どもが追求したくなる問い」となっているか

⇒「既習」「友達の考え」「日常的な事象や感覚」「予想」などとの“ずれ”を生かして問いを生む。

【自ら学ぶための手立てとなる

南小スタンダードの確立】

児童が安心して、分かりやすく学ぶことができ、自ら学ぼうとする児童を支えるための3つの型

◆「児童の話型」

⇒論理的に整理して話す力、中心をとらえて聴く力を育成する。

◆「教師の出番の型」

⇒方法や根拠、意味など、場面ごとにねらいを意識して問い返したりや反応したりする。

◆「算数科の授業の流れの型」

⇒児童が1時間の授業の流れの把握し、見通しをもって安心して学習に取り組ませる。

南足柄市の研究 【平成30年度南足柄市学びづくり推進研究事業計画】

研究主題 夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子どもの育成
～「確かな学力」の向上をめざした指導の工夫・改善～